

◆ テーマ7 ◆

SNSで発信するなら 気をつけたいこと

「関係のない人は興味がないだろう」などと
考えているようなら、SNSでの発信は危険。

友達だけでなく不特定多数が見ている

ということを認識すべきです。

不適切な投稿は炎上の、

不用意な投稿はトラブルの

火種となってしまうことも。

そのことを忘れないで!!

ちょっとしたつぶやき、友達とのやりとり、写真
や動画に写り込んだものなど、いろいろなピース
を組み合わせると個人のことわかったりする。
実名じゃないから安心！なーんて思わないで、
責任がもてるモノ・コトを発信しよう👍



12 悪ふざけなどの不適切な投稿

線路に下りて撮った写真をアップ



Mくん、Nさん、Oくんの3人は、学校の帰りに制服のまま線路に立ち入り、大はしゃぎで写真を撮影。仲間に見せようと、SNSにアップしました。

警察に通報されて学校にも抗議が殺到



あっという間に特定されて学校名や名前が晒され、警察に通報が。鉄道営業法違反等の罪で家裁に送致され、学校には抗議の電話やメッセージが...

考えてみよう！



▶学べる！
プチ動画⑫



身内だけに見せるつもりが拡散され、大炎上することもある不適切な写真や動画。度を越した悪ふざけや悪意の投稿は、どうしたらなくなるでしょう？

A. やらうという子がいたら

公序良俗に反する行動は×。特に線路は、感電死の恐れもあり危険です。「どうせ内輪しか見ない」という考えも甘い。誘いにはのらず、ダメなものはダメ！と注意して止めましょう。

B. 投稿されたものを見たら

非公開なら自分が拡散しないように気をつけること。公開・非公開に関わらず、急ぎ削除させましょう。ネットで広まれば大ごとになることを思い出させ、反省を促すのがベストです。

C. 写真や動画以外の不適切投稿

誰かになりすましての投稿や、ウソの情報を書き込んだりすることも不適切投稿です。投稿すること自体当然NGですが、面白がって騒いだり拡散したりするのも絶対にやめましょう。

解説

不適切な投稿を探して拡散させるのを楽しむ人もいる

落ち着いて考えれば、やっていいことかどうか判断がつく年齢になっても、そのときのノリや勢いで撮影し、公開してしまう人が後を絶ちません。アルバイト先で不衛生な動画をアップする若者の行為から、「バイトテロ」という言葉が誕生したほどですが、それらはいずれも「そもそもやってはいけないこと」のはず！

写真や動画だけでなく、なりすまし投稿やフェイク情報の書き込みなども、不適切投稿です。それらを探し、拡散させて晒し者にするのを楽しむ人もいます。ネットで広まればあっという間に個人が特定され、罪に問われたり賠償請求をされたりすることもあります。いたずら半分でしたことの代償は、恐ろしく大きいのです。

ワンポイント
アドバイス

「デジタルタトゥー」と称されるほど、ネットに刻まれた情報は半永久的に残ります。未来の自分を苦しめることのないよう、正しい利用を！

13 投稿から個人が特定されたことによる被害

おいしい情報をシェアするつもりが



知らない人に付きまといられるようになった



よく行くショッピングタウンでお気に入りのお店を見つけたPさん。親しい人たちに教えてあげようと、**位置情報オフで撮影した写真を投稿**しました。

その後、誰かに後をつけられていることに気づきました。引き金は、Pさんが投稿した**写真の背景。場所がわかり生活範囲が特定**されてしまいました。

考えてみよう！



▶学べる！
プチ動画13



アップした写真から、撮影場所や生活範囲が知られてしまうことも。事件やトラブルに巻き込まれないために、写真投稿の際に注意しなければならないことは？

A. 指紋さえわかる高画質

カメラの性能が高まり、ピースサインで指紋が判別されることもあるとか。電柱や看板の文字が読めたり、瞳に映ったものが見えたりする可能性も。これまで以上の注意が必要です。

B. 読める人を想像して投稿

一番の安全策は、プライベートな情報をネットに載せないこと。とはいえ、情報のシェアは悪いことではありません。投稿前によく見直し、非公開設定にして特定の人とだけ共有する等の危機管理を！

C. もしも不安を感じたら

自分のサイトに気になる投稿があった、知らない人に突然名前呼び止められたなど、不安を感じたときは必ず大人に相談すること。できるだけ、誰かと一緒に行動しましょう。

解説

写真の中の建物や地域の行事でも生活範囲は憶測できる

子供・若者は、SNSなどを利用する際の個人情報の取扱いにルーズな傾向があります。メッセージアプリのタイムラインで、定型の質問に答えながら次の人へと回す「バトン」をする等、**公開範囲設定をしていなければ、直接の友達以外の人まで読めてしまい、トラブルに発展**することも。そもそも、誰でも見ることができるのがSNSの基本。写真に映り込んだものから、**訪れた店や地域など生活範囲が推測できるため注意**が必要です。①友人同士でも個人情報は安易に答えない・回さない、②ネットで少し話して登録した友達は、タイムラインを非公開にする、③非公開で得た情報は勝手に再投稿やスクリーンショットをしない、ことに気をつけましょう。

ワンポイント
アドバイス

コミュニケーション系アプリの多くは、読んでもいい人の設定ができます。公開範囲を絞り、共有したい写真を確認することが、何より大切です。

※ ネット上にアップした・された情報で困ったことが起きたら『違法・有害情報相談センター』もご利用ください。▶ <https://www.ihaho.jp/>



14 旅行中の写真投稿や書き込みによる空き巣被害

旅行先から写真をアップしたら

自宅が空き巣に荒らされていた



家族で旅行に出かけたQさん。仲の良い友達にも様子を伝えたいと思って、リアルタイムで写真やメッセージを自分のSNSに投稿しました。

帰ったら、家の中がグチャグチャ！留守にしている間に空き巣に入られてしまったのです。投稿内容から不在が知られてしまい狙われたとのことでした。

考えてみよう！



日常の出来事や楽しい思い出を、仲良しと共有したいと思う人が多くなりました。投稿内容が予想外のトラブルに発展しないために、どんな工夫ができますか？

A. 公開範囲に気をつける

非公開のグループトークや、SNSの非公開アカウントを賢く活用すれば、許可した人だけしか読めないのが安心。ただし、「勝手に他所に転載しない！」を全員で守ることが重要です。

B. 内容やタイミングをぼかす

「いいね」が欲しくて公開する子に、とがめるだけでは効果なし。個人が特定される危険も考え、スタンプやボカシをうまく使う、公開は帰った後に、というような工夫をいろいろ考えましょう。

C. 悪い人の目線で想像する

留守だとわかれば空き巣に、ブランド小物を毎日持ち歩くとわかればひったくり、etc... 何が伝わると誰に狙われるか、あれこれと想像してみることもトラブルの予防に役立ちます。

解説

誰でも読めるSNSへの投稿内容は、犯罪に利用されることも

長期休暇や連休などは自宅を留守にすることも増えると思いますが、リアルタイムでSNSに投稿すれば、「今、自宅は誰もいません！」と留守を公言しているようなもの。メッセージアプリのタイムラインへの投稿も同様、“友達限定”にしていなければ誰でも読むことができちゃうので要注意です。

SNSがきっかけの空き巣被害も深刻ですが、「一人で留守番」が憶測できる投稿も危険。何気ない投稿が取り返しのつかない事態を招かないよう、送信前に必ず読み返す習慣をつけましょう。また、非公開設定でも読んだ人のうっかりで人目にさらされることも。誰が読んでもいい内容に留めるのが、一番安全な方法です。

ワンポイント
アドバイス

自分の投稿が、悪い事をしようとする人の目に留まることだってある。これを意識できるようになれば、安全確認をする子も増えるはず。

15 自画撮り写真の交換に端を発した脅迫被害

同性のステキな友達だと信じていたのに



好きなアーティストの話題で意気投合した同じ年のRさんと直接やり取りを始めたSさん。やがて、誰にも言えない秘密も打ち明けられる仲になりました。

写真を送ったら態度が急変、脅迫された



Rさんの写真が届き、嫌われたくなくて自分の写真を返信した途端、写真付きで秘密をネットに拡散されたくなければ裸の写真を送れと脅されました。

考えてみよう！



優しい言葉で信用させて入手した個人情報や写真を悪用したり、「ネットにばら撒く」「学校に知らせる」などと脅したりする。こんな被害にあわないために、できることは？

A. 裸の画像は送らない

一度、ネット上に流出した画像は、全てを回収・削除することはできません。また、友達などに裸の写真を送信させたり、裸の写真を他の人に転送したりすることは「犯罪」※です。

B. 情報の組み合わせに注意

フォロー相手や友達との会話から名前や学校名が知られてしまうと、顔写真でも脅しのネタになる可能性が！ネットだけの知り合いに、秘密や内緒ごとを打ち明けるのはとても危険です。

C. 深みにはまってしまう前に

SNSのやり取りでは、ウソの書き込みや写真の偽装ができるので、目に見える情報を簡単に信用しないこと。一度送ってしまえば取り戻せないことを忘れずに、困ったら迷わず大人に相談を！

解説

言葉巧みに近づく人を見える情報だけで判別するのは不可能

政府インターネットテレビでは、実際の事件を基にしたドラマ仕立ての動画を公開しています。悪意ある大人の巧妙な手口を、動画で疑似体験できますので、ぜひ参考にしてください。

自画撮り被害児童のほとんどは中高生。仲良くなりたと思わせて個人情報を聞き出し、写真を送らせて脅す手口の一部始終を、じっくり考えながら視聴し、時間をかけて真剣に話し合ってみましょう。



ワンポイント
アドバイス

「自分だけは大丈夫」と思って注意を怠ることが一番危険！
”直接”写真をやり取りしない＆秘密を話さない。これが安全の鍵です。

※児童買春、児童ポルノに係る行為等の規制及び処罰並びに児童の保護等に関する法律違反。